

令和5年度第1回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会 議事概要

日時：令和5年7月25日（火） 14:00～16:00

場所：高知共済会館 3F「桜」

出席：委員10名出席（全員出席）

議事：第5期高知県産業振興計画に向けた観光戦略について

【意見交換概要】

（三井部会員）

- ・今年3月から、クルーズ船が寄港するようになり、インバウンドが再開したと実感している。5月には、台湾の定期チャーター便が高知空港に就航したことから、S G G 善意通訳クラブの3～5名が高知空港で入出国のお手伝いをしているが、その現場から要望があったので報告する。
- ・台湾から来られた方は、基本的に自動販売機を使わないので温かいお茶をサービスしてはどうか。また、手続きが昼過ぎとなることから、待合室に軽食のサービスがあれば良い。
- ・また、メンバーが、機内への持込み規制等に関する苦情も対応している。クルーズ船の場合は、業者が意見を集約し対応しているが、高知空港にはそのような仕組みがない。現場の声を集約する仕組みが必要。
- ・今後、チャーター便の延長、定期便化を目指すのであれば、現場の声を吸い上げて改善していただきたい。

（小西観光振興副部長）

- ・定期チャーター便に関する要望について、5月から初めての試みであり、空港側も、当初ハンドリング等に苦勞をしていたが、現在は、慣れてきている状況。
- ・ご指摘の件に関して、限られたスペースで臨時に対応している状況であるが、空港への備品等の設置については、今後検討する。
- ・苦情対応については、テロ対策等の観点から、チェックが厳しいこともあり、難しい部分もあるが、事前にお客様にお伝えすることで、スムーズな出入国につなげていきたい。
- ・現場の意見の集約については、交通運輸政策課とも連携して対応していかなければならないと考えている。

(黒笹部会員)

- ・コロナが落ち着き、高知県にクルーズ船が多く寄港しているが、経済効果について、どう分析しているのかお聞きしたい。
- ・また、台湾のチャーター便の搭乗率は9割を超えており非常に良いと感じている。高知での泊数や1人あたりの消費額等のデータがあれば、お聞きしたい。

(山脇観光振興部長)

- ・クルーズ船については、本年、61隻の寄港が予定され、週1回以上の寄港となり、今までで一番多いのではないかと。
- ・外国客船で来日された方の属性は、「アメリカ、イギリス、オーストラリア」の英語圏の方が中心であり、アジア圏の方との違いが、比較的個人で自由に動きたいという傾向がある。
- ・アジア圏の方のようにオプションツアーに参加して、バスで回るといった観光スタイルではないが、申し込まれた方は、室戸ジオパークやお寺、モネの庭、龍河洞などに行っている。シャトルバスで移動する観光客は、高知市内で買い物をして帰る。クルーズ船で来られる方の特徴は、船で移動するため、購買意欲が非常に高い。県内の旅行の日数の平均は1泊2日で、消費額は、2万6千円程度であるが、何年か前の沖縄県での資料では、クルーズ船乗客の消費額は、4万5千円程度と聞いており、宿泊はないが、買い物で非常に多く消費する傾向があることから、かなりの経済効果があると考えている。
- ・台湾のチャーター便の観光ツアーは、水曜と土曜日の週2回なので、それぞれの便で入国、出国することから、3泊4日と4泊5日の四国周遊コースとなる。3泊4日は、平均すると高知県で1泊、4泊5日は、2泊しており、主に県西部での観光が多い。仁淀川、四万十川などや最近人気となっているのが、梶原町での隈研吾氏が設計した建築物の見学、遊覧船、沈下橋の見学などである。
- ・経済効果としては、観光庁の統計となるため全国的な数値となるが、台湾のお客様は、1泊で2万円程度の消費額となっている。
- ・県としても今後、ツアーのお客様にアンケートを実施するなどして、高知県の経済効果を調査する。

(古谷副部長)

- ・宿泊施設の現場の声を聞いたが、外国のお客様は、旅館では1泊2食、ホテルでは1泊朝食付きのプランが多い。最近よく外国人の方が商店街に多く来ていただいているとの声を聞いている。また、観光には、県西部の四万十、足摺に行っているとのこと。
- ・県東部についてもクルーズ船ツアーの観光客が、龍河洞に多く来ていただいているとの声を聞いており、クルーズ船の効果が出ていると実感している。

(森部会員)

- ・第5期産業振興計画に向けての大きな目標の1つとして、滞在日数の増加に加えて、単価アップも目指していただきたい。高知県の旅館・ホテルでは、人手不足が深刻な課題となっているので、同じ人数で倍稼げば、非常に効率が良い。1人の方がどれだけお金を落とすかが重要で、数は少ないが、多くのお金を落とすとしていただくことができる富裕層をターゲットとしてはどうか。
- ・例えば、高知城で300万円の宿泊プランなどの高単価なプランを推進してはどうか。
- ・資料3の「地域の伝統文化の継承につながる体験プログラムの推進」については、素晴らしいと思う。例えば、よさこい踊りについて、本番だけで無く練習から参加するので、滞在型観光から移住へもつながると考えている。
- ・高知のイベントや祭事に滞在型プランとして練習から参加できる仕組など、伝統文化の担い手の継承・保全も含めて検討していただきたい。
- ・二次交通について、ヘリポートの有効活用を考えていただきたい。
- ・大阪・関西万博においても空飛ぶタクシーを活用するため、高知県が最先端となって、ヘリポートを空飛ぶタクシーの離発着場として活用していただきたい。空飛ぶタクシーは、観光だけでなく、防災においても役に立つことから、観光がリードして進めていただければ、大阪・関西万博で来場されたお客様もダイレクトに高知に呼び込むことができる。

(山脇観光振興部長)

- ・今までは、大きな目標を県外観光客入込数としてたが、伸びしろも含めて1人あたりの単価を上げることで、観光消費額を増やしていく方向へ進めて行こうと考えている。
- ・量から質へ移行する必要がある、より付加価値の高いものに対価を払ってもらうという方向に議論を進めている。
- ・地域の伝統文化の継承についても了承がいただければ、長期的な視点で具体的な施策につなげて行くように取り組んで行きたい。
- ・空飛ぶタクシーについて、先行している県などを参考にするために、調べている。
- ・高知県は、広いので、ヘリポートを使えば、中山間対策にもつながると考えており、地域とも協議を実施したが、現状としては厳しい。しかし、今後、国全体で空飛ぶタクシーの普及のために、制度を緩和するなどの取り組みが進んだ場合に備えて、乗り遅れないようにしていきたい。

(町田部会員)

- ・観光という視点で見ると、高知は食材が素晴らしく、「食」は、全国でも注目されている。

- ・食に特化した施策を柱に、高付加価値化の非日常的な体験として、1日10万円コースなどの高単価のコースにもお金を払う方はいらっしゃる。高知県は高単価に見合うだけの食材が揃っており、そのようなプラン等に関わりたいと思っているシェフ、料理人もたくさんいるので、そういった方とコラボして、例えば、1日限りのダイニングアウトを観光ツアーと結びつけるなどして、富裕層を誘致することに向いている。
- ・また、空港などのデジタルサイネージを活用して食の情報をもっと伝えてはどうか。更に、食の学びや食体験などをもっと観光と結びつければ良いと考える。

(鈴木観光政策課長)

- ・「食」はこれまでも高知の強みの3本柱として進めている。次の「極上の田舎、高知。」にも入ってくる。先ほど、ご意見いただいた、高付加価値化にどうつなげて行くかが課題だと思っているので、今後の検討材料とさせていただく。

(赤池部会員)

- ・台湾チャーター便の搭乗率が9割以上と理解した。旅行会社のHPにも高知ツアーがトップ掲載されていたが、リピート率についてお聞きしたい。
- ・また、定期便に向けて取り組むとあるが、高知県民が台湾にもっと興味を持ち、高知県民も台湾に観光に行っていただくような双方向の関係が必要。台湾は高知から一番近い外国であることを理解してもらい、台湾にもっと行っていただくような工夫があれば良い。

(山脇観光振興部長)

- ・本年の5月10日からチャーター便が就航し、3ヶ月の平均搭乗率が94%超であるが、全て初めてではないか。
- ・3泊4日と4泊5日で、9コースずつあるが、今後、一度来られた方が、別のコースを申し込んでリピートしていただくことはあると考えている。その際に、コースをより魅力的に増やして行くことでリピート率を安定させる。
- ・遠くないうちに定期便化したいと、航空会社の方も考えているようである。
- ・座席の販売を旅行会社から航空会社が直接販売するような方向に徐々にスライドしていくとの話もある。
- ・今後、台湾ー高知の個人旅行を増やしていきたいと、台湾側とも話し合いをしている。
- ・台湾からも台湾ー高知の関係強化のため、日本の都道府県で高知県がパスポートの取得率が一番になっていただきたいと知事におっしゃっていた。
- ・台北だけでなく、台中などと姉妹交流や文化交流、経済交流による、人の行き来を増やす活動もお願いしたいと、直行便の必要性を伺わせるような発言もあった。
- ・今後、チャーターで続けるのは難しいと考えているので、空港の整備とセットで

スケジュールリングしながら進めたいと考えている。

(北古味部会員)

- ・高知空港の出迎えなどで停まっているバスの大半が県外ナンバーであった。県内のバスの稼働率がどれくらいなのか調査して、今後の施策に反映していただきたい。
- ・台湾も高齢化が進みスポーツなどの健康嗜好が高まっており、高齢者向きの健康ツアーが人気である。
- ・そのため、日本でもゲートボールのツアーが検討されており、来年の5月に実施する方向で進めている。そのようなことから、第5期産業振興計画の観光分野の取組に、健康とスポーツの視点も入れていただきたい。
- ・宿泊などの観光業界などでは、人材不足は大きなテーマと聞いている。学校法人龍馬学園に、留学生が80名程在席しており、その大半は日本で働きたいと希望しているが、現状では卒業から就職のルートが少なく、厳しい状況である。
- ・留学生を対象として、国際ビジネス学科を来年新設する予定である。2年間学ぶことで、県内のホテル、観光施設で勤務ができるビザを取得できるコースとして入国管理局とカリキュラムを協議している段階である。それと同時に、国が外国人留学生キャリア形成促進プログラムを新しく改定することとなった。
- ・主な改定内容として、以前は、自動車の整備での留学だと、自動車整備士にしか就職できなかったが、改訂後は、それ以外でも就職できるようになり、就職の幅が広がった。
- ・しかし、高知県は、働き口が少なく、賃金も安いいため県外に流れてしまっている。
- ・今後、人材育成の部分について、留学生にもっと焦点をあてた施策を実施してはどうか。
- ・外国人を受入する事業所にとっても技能実習生を外国から受け入れる場合は、1人あたり60万から100万程度を管理団体に支払う必要がある。しかし、龍馬学園の留学生は、料金が必要ない。そういった点からも非常に活用していただきやすいと考えている。

(山脇観光振興部長)

- ・バスについては、高知インアウトであるため、県内のバスが有利であるが、クルーズ船の対応などで、県内のバスが足りないときに、県外のバスを活用しているケースや県外のバスの仕事が無い時に、安く県外からバスを持ってくる場合もあるが、地元バス会社等にしっかりと声をかけるなどして対応していく。
- ・台湾からの誘客について周遊ツアーから健康ツアーなどバリエーションを増やしていきたいと考えている。チャーター便が、定期化すれば、多様な旅行会社が参入してくるので、様々なツアーができてくる。

- ・現在は、旅行会社が販売しているが、今後、航空会社がチケットを売る方向に進めたいと考えている。
- ・また、海外でプレゼンする際に、健康ツアーにぴったりの場所であることをしっかりPRしていければ。
- ・人材育成については、非常に良いご意見をいただいた。海外から実習生を呼ぶルート確保に向けて取り組んでいるが、既に来ていただいている留学生の方に就職していただくのは良い案だと思う。国の制度の変更についても勉強させていただく。

(古谷副部長)

- ・人手不足は喫緊の課題。ベトナムなどの外国人材の話聞いて勉強しているところである。
- ・1人雇うのに60万円ほどかかるのが課題であった。今回の情報は非常にありがたい。旅館・ホテルなどに共有しておく。

(鎌倉部会員)

- ・連続テレビ小説「らんまん」は、予想を上回る素晴らしいドラマで、視聴率も良く、高知県に良い影響をもたらしてくれている。
- ・今年のGWに山口県に行って、秋吉台などを訪れたが、非常に多くの観光客であふれていた。翌日も大渋滞で、バイクを途中で止めて歩いた。また、島根県の水族館も非常に多くの観光客であふれていた。
- ・それからすると、高知県もまだ、観光客を呼び込める余地は残っていると印象があった。とはいえ私も、今後もずっと入込数の増ばかりを狙っていくのはどうかと思っていたので、量から質への転換は良いと考える。
- ・どこの地方も自然が豊かで、食べ物が美味しく、人も温かいことから、差別化して高知の特色をどう表現して体験していただくかが難しい。
- ・「高知家は一つの大家族やき。」は、県外の人のもとより、県民にも非常に分かりやすかった。一方、「極上の田舎、高知。」は、何を以て極上と言うのかなど、県民の皆様はどう理解していただき、考え方を浸透させていくかが課題になる。
- ・そのようなことから、「極上の田舎」の後ろに動詞をつければ、より具体的に伝えることができるのでは。
- ・可能性は秘めているので、是非チャレンジしていただきたい。
- ・高知県の特徴として、高知県から出ていかず残って生活している人は、積極的に残っている。高知県での生活を不便と思わず、幸せを感じている。そこが1つの特徴。高知の田舎で、生き生きと暮らしている現状をどう表現し、伝えていくかが、課題と考える。
- ・また、資料3にある具体策をどのように実現して行くかが鍵となる。

(山脇観光振興部長)

- ・コンセプトについては、全てに関連する考え方であり、実際の観光客に向けては、別のキャッチコピーで伝えていく。県民の方に理解していただく事は、非常に大切だと考えている。
- ・県外観光客の入込の数については限界がある。伸びしろとして、GW明けから夏休みの間や冬などの閑散期にスポーツ合宿やMICE、平日旅行を誘致することで、平準化を図る。

(鈴木観光政策課長)

- ・コンセプトである「極上の田舎、高知。」については、様々なご意見をいただいている。特に、地域の観光関係者の皆様とは特に連携する必要がある。
- ・沈下橋など、生活する中で、当たり前としてあるもの、県外の方から見れば、特別なものとして捉えてくださることに、気付いてもらう事が大切である。
- ・コンセプトは、4年間維持して行くつもりなので、その間に商品をつくり、交流が生まれる。観光客の喜んでいただく姿を見て、「そのままの自然の姿を見せれば良い。」と感じていただきながら、次へとつなげて行く。
- ・「極上の田舎、高知。」は、県内に向けたコンセプトであり、県外の方に伝えて行く、キャンペーン名やキャッチコピーは、別で考えている。キャンペーン名は、「どっぷり高知旅キャンペーン」として、高知県にどっぷりつかってもらうイメージである。キャッチコピーは、「道草こそ人生」、「好奇心を道連れに」などを考えて、コンセプトやキャッチコピーをさび分けながら使っていきたいと考えている。

(黒笹部会員)

- ・コピーは強くないといけない。ささるコピーが必要。「極上の田舎」や「どっぷり」というワードは既に聞き飽きている。日本人にも外国人にも分かりやすく伝えることができるようなワードが必要である。例えば、以前に「クールジャパン」というコピーがあったが、日本人にも外国人にも非常に分かりやすい。このように分かりやすく、キレのあるコピーが必要である。
- ・ご説明いただいた資料を見ると、具体的に何をやるのかが、よく分からない。具体的な施策等が分からなければ、評価が難しい。次の観光部会でお示しいただけるのか。

(鈴木観光政策課長)

- ・コンセプト、キャッチコピー、キャンペーンと3つご説明したが、キャンペーン名称については、別に検討委員会を立ち上げて検討している。9月中旬には、県外に向けて観光商品のPRとして出して行く。キャッチコピーについては、キャ

ンペーンが来年の4月からとなるので、その前段のポスターやのぼり旗等でオープンにするため、直前の公表となる。

- ・ 具体の施策については、今回は、次期産業振興計画の骨格をお示しして、具体策のご意見などをいただき、次回の観光部会でお示しする予定である。
- ・ 次回の観光部会は、来年の1月下旬から2月上旬を予定している。

(天野部会長)

- ・ コンセプトの「極上の田舎、高知。」は、県外の人からは分かりやすいが、県内の人には、分かりにくいかもしれない。
- ・ 目標値が、県外観光客の入込数から、人泊数に変更になることについては、非常に良いと思う。
- ・ 長期滞在で、ストレスフリーとするためには、通信環境の整備が、必須である。高知県は、田舎であるが、インターネット、WiFi 環境などの通信環境は、日本一を目指すことは、高知のPRにつながることから、是非県として推進していただきたい。
- ・ 龍馬パスポートは、非常に良い施策であると思うので、龍馬パスポートを国内だけで無く、インバウンドの方にもいかに浸透させるかが、大切である。

(山脇観光振興部長)

- ・ 龍馬パスポートについては、25万人程ユーザーがいる。来年に向けて、長期滞在をしていただく上で、必須なポイントなど、一部マイナーチェンジを行いながら、最大限活用していく。
- ・ 通信環境について、WiFi 環境の整備などは、県として、長期滞在に向けた施策を大きな方向として進めている。
- ・ 6月議会の補正予算で国の交付金などを、WiFi の環境整備に活用する。特に旅館・ホテルに助成金を活用する予定。
- ・ 既に整備されているところも通信の容量が少なかったり、通信が途中で途絶えたりするような施設は、通信容量を増やすための整備を行いたいと考えている。
- ・ それでもまだまだ不足するようであれば、県が前に立って宿泊施設の整備を実施していきたいと考えている。
- ・ 観光施設の無料 WiFi などは、貸出しルーターでの取り組みを進めており、全てのエリアをカバーするのは費用面からも厳しい。
- ・ そのため、市町村の補助金やルーターなどの使い分けを行いながら進める。
- ・ 主に旅館・ホテルなどでの SNS を使った発信が多いと思うので、そういった点を中心に進めて行く。

(三井部会員)

- ・6月にアメリカの大学生を高知県に案内した際、昼食を牧野植物園で食べた。昼食代が1,500円程度かかり少し高いと感じたが、アメリカの大学生は、「安い」と言っていた。外国の方からすれば、昼食代1,500円は、安いと感じているので、もっと価格を上げて也十分いける。
- ・また、幕末、明治時代に高知県は、世界で活躍した著名人を多く輩出しているので、そのような歴史的に活躍した人物と観光をつなげる取り組みが必要である。
- ・更に、地球33番地のような高知にはまだ埋もれている、良いコンテンツがあるので、そのようなコンテンツの更なる掘り起こしをお願いしたい。

(鈴木観光政策課長)

- ・学びは、1つの大きなテーマ。人物も学びの1つの入口と考えているので、是非、取り上げていきたい。

(山脇観光振興部長)

- ・アメリカのテキサスに知り合いがいるが、アメリカでは昼食代が2,000円が通常。インバウンド観光客も、旅館・ホテルで食事をしているが、それなりの食事代となっている。受入側の意識として、しっかり必要な料金設定をすることの必要性を、様々な機会を捉えてご説明する。

(黒笹部会員)

- ・キャンプなどのアウトドアのピークは、約2年前に過ぎており、現在は、コロナが落ち着きインドア系に人は集まっているのではないかと、業界関係者が話していた。
- ・そのためアウトドアや野外活動は、何もしなくても人は集まるといった考えは改めた方がよい。

(山脇観光振興部長)

- ・ご意見いただいた内容を踏まえて、屋外での発信の際は工夫をしていきたい。

(黒笹部会員)

- ・キャンプ場で時間を過ごすスタイルは、すでに定着している。今後は、キャンプをしながら、何処かへ出かけるスタイルに移行しつつある。
- ・そのため、高知の強みを生かして、キャンプと釣りを組み合わせようか。高知県は、キャンプと組み合わせることができるコンテンツが多くあるので、それらを生かしていく必要がある。

(森部会員)

- ・釣りは良いと思うので、是非、釣りをテーマにPRを実施していただきたい。
- ・空港に関して、以前は、高知から沖縄、北海道、関西空港などの直行便があったが、現在は途切れている。
- ・各主要空港に直行便をつなげて行くことが、地理的ハンデのある高知県には必要である。
- ・そういった点を見越した場合、空港のキャパの関係から、空港の増設整備が必須となる。そういった取り組みの現状についてお聞きしたい。また、更に先を見越した増設を検討しているのかをお聞きしたい。

(山脇観光振興部長)

- ・ハブ空港とつなげるのは大きな作戦であり、台湾の定期便についても必要であると考えます。
- ・ハブ空港とつながることは、大切である。特に関西空港とつながることが大切。そのために、LCCには話し合いのお願いはしているが、空港の拡張が見えてこないと厳しい。
- ・関西空港とのつながりはしっかり進めて行きたい。

(以 上)